

## 川越の歴史・江戸時代へ!

### ●川越城本丸御殿!

同窓会の小旅行「川越の桜と歴史・文化を楽しむ!」の記録です。参加者33名(子ども1名)が揃ったところで「ヤオコー川越美術館」内で記念撮影をさせていただきました【写真①】。マネージャーの宇多村さんが「腕前はプロです」とおっしゃられたとおり、良い写真が残りました。



新河岸川の桜は、残念ながら散ってしまいましたが、前日の土曜日



には、和舟に乗って桜を楽しむ「春の舟運」が行われたようで、7日朝の読売新聞にその様子が載っていました。

### ◆和舟でお花見

…埼玉・川越市

埼玉県川越市を流れる新河岸川で6日、和舟に乗って桜を楽しむ「春の舟遊」が行われた。▼今年は開花が早く、川面いっぱい桜の花びらが浮かぶ中での舟遊となった。約330人の観光客らが幻想的な風情を楽しんだ。

▼新河岸川沿いの桜は、太平洋戦争の戦没者を慰

霊するために植えられたもので、「誉桜(ほまれざくら)」と呼ばれる。現在も、約350メートルの川沿いに約70本のソメイヨシノが残っている。▼

【2013年4月7日 読売新聞】



\*

美術館に別れを告げてバスに乗り込むと11時、「川越城本丸御殿」に向かいます。大型バスでの移動なので約10分で到着(歩けば5分程度)。道路の反対側には「川越市立博物館」がありました。

### ◆川越城の歴史

川越城は、扇谷上杉持朝(もちとも)が古河公方足利成氏(しげうじ)に対抗するため、長禄元年(1457)に家臣の太田道真(資清)・道灌(資長)父子に命じて築城したものです。当初の規模は、後の本丸・二の丸を合わせた程度と推定されています。

やがて川越城は、天文6年(1537)後北条氏の占拠するところとなりましたが、同15年(1546)川越城の奪回を図った上杉氏は後北条氏の奇襲に会い、大敗して群馬に逃れ、それ以後、後北条氏の支配が決定的となりました。川越城を掌中に収めた後北条氏は、周辺の旧上杉氏所領を直轄領に組み込むとともに、城代として譜代の重臣大道寺氏を配置しました。

天正18年(1590)、豊臣秀吉の関東攻略に際し、川越城は前田利家に攻められて落城しました。やがて同年8月徳川家康が一族家臣を従えて関東に移るにおよび、重臣を重要な地に配して領国の安定を図りました。川越には酒井重忠が1万石をもって封じられ、ここに川越藩の基礎が成立しました。

寛永16年(1639)に藩主となった松平信綱は川越城の大幅な拡張・整備を行い、近世城郭の形態を整えることとなりました。即ち本丸、二の丸、三の丸等の各曲輪、四つの櫓、十二の門よりなり、総坪数は堀と土塁を除いて4万6千坪となりました。

その後も明治維新に至るまで、幕府の要職にある大名が置かれた川越城は、平成18年(2006)に財団法人日本城郭協会から「日本100名城」の選定を受けました。また平成19年(2007)には築城550年を迎え、市内各地でイベントが行われました。

\* \*

### ◆本丸御殿の歴史 【写真④:本丸御殿玄関】

川越城本丸御殿の記録として、もっとも古いものとしては「江戸図屏風」(国立歴史民俗博物館蔵)に描かれた「川越城」部分の描写ということになります。「江戸図屏風」は17世紀後半に描かれた江戸とその周辺での3代将軍家光の事蹟を記したもので、その成立の経緯には諸説ありますが、江戸時代初期の様子を見るうえでは重要な資料です。



江戸図屏風の川越城は本丸と二の丸とされる部分が描かれており、朱塗りの社殿の三芳野神社と馬屋を隔てて向かい合う位置に白壁に囲まれた本丸御殿があり、その下に二の



丸の建物群が描かれています。本丸御殿は正面に大きな門があり、9棟以上の建物が配されています。屏風には鷹を腕に留ませた鷹匠の姿も見ることから、家光が川越周辺で鷹狩をした際に立寄った場面と考えることもできます。このことから、当時の本丸御殿は将軍が川越を来訪した際に滞泊するための「御成御殿」としての性格を示しており、城主の居所は二の丸の建物群であったとすることもできます。【写真⑤:本丸御殿平面図】



江戸時代後期に成立した「新編武蔵風土記稿」においては、本丸に「今は家作なし」と記されています。家光没後、将軍家の川越来訪はほとん

どなくなり、本丸御殿の御成御殿としての役目もなくなったためか、いつしか殿舎は解体され、「家作なし」つまり空き地になったと考えられます。【写真⑥:廊下】



ところが、江戸時代末の弘化3年(1846)、城主の居所である二の丸御殿が火災によって焼失してしまいました。住居を失った城主は、新たな御殿の建造を空き地であった本丸に求めました。こうして嘉永元年(1848)、時の城主松平斉典(なりつね)によって本丸に新たな御殿が建てられたのです。当時は川越藩の歴史の中でも最大の石高(17万石)を領していた時期であり、本丸御殿は16棟、1025坪の規模を誇っていました。

明治維新を迎えると、川越城は次第に解体されていきましたが、大広間及び玄関部分だけは入間郡役所、煙草工場、中学校校舎などに使用されました。現存する建物は往時と比べ、敷地面積にして8分の1、建坪で6分の1の規模でしかありませんが、3間の大唐破風をはじめとする建物の各部分に武家の威容を感じ取ることができます。日本国内でも本丸御殿が現存している例はきわめてまれで、昭和42年(1967)に埼玉県指定文化財になりました。

家老詰所は、明治維新後に福岡村(現ふじみ野市)

にある星野家に払い下げられていたものを、昭和63年(1988)に復元移築したものです。江戸時代には現在の位置よりも西にあり、他の建物からは独立して土塀に囲まれていま



した。藩政を支えた家老の居室が残っていることは珍しく、本丸内の日常生活を知る上で貴重な建築です。御殿部分に続き、平成3年(1991)に県指定文化財に追加指定されました。【川越城本丸御殿ホームページより】【写真⑦⑧:庭園】



\*

#### ●童謡「通りゃんせ」発祥の地

本丸御殿を出ると、駐車場の手前に石碑が…。その先で鬱蒼とした木立に囲まれているのが、三芳野神社だそうです。童唄「通りゃんせ」発祥の地として知られているそうです。この神社は、1624年(寛永1)、藩主酒井忠勝が川越城の守護社として造営したそうです。もとは城内にあり、庶民の参詣が許されたのは年一度の大祭の日だけ。城内警備の武士のあいだを、緊張しながら参詣する庶民の様子を童謡に歌ったものといわれているそうです。

♪通りゃんせ 通りゃんせ ここはどこ 細通じや 天神様の 細道じゃ… 行きはよいよい 帰りは怖い 怖いながらも 通りゃんせ 通りゃんせ♪

天神様ではなく、警護の武士が怖かったのですね。

\*

#### ●初雁は…

バス駐車場の隣は「川越市初雁公園野球場」です。両翼91m、センターで110mのグラウンドですが、西澤さんによると、高校時代の王選手がこのグラウンドで場外ホームランをがんがんと打ったという記憶があるそうです。昨年は市制施行90周年記念で早慶戦を行ったそうです。この初雁とは、三芳野神社が平安時代初期に成立したと伝わっていて、在原業平の伊勢物語にてでくる「三芳野の歌」に「我が方によると鳴くなる三芳野の田面の雁をいつかわすれむ」とあるように、三芳野神社の初雁を呼んだことから命名されたとされているそうです。

11時55分、バスは昼食会場の蔵街一番街にある「幸すし」に向かいます。 <後半につづく>